

いちばん、人を考える会社になる。

**第一生命**

---

## 2011年3月期 第1四半期決算報告

2010年8月11日  
第一生命保険株式会社

---

- それでは、第一生命グループの2011年3月期 第1四半期決算報告を行います。
- まず、私から資料に沿って決算内容についてご説明させていただき、残りの時間を質疑応答とさせていただきます。
- 1ページをご覧ください。

- 中核事業の営業指標が大きく改善。主力商品の販売が好調だったことから第一生命単体の新契約高は前年同期比で13.4%増加、解約失効高は同35.0%減少
- 金融環境は厳しかったものの、金融派生商品によるヘッジ効果等により、第一生命単体の一般勘定資産運用収支は改善
- 前年同期比では減益となったものの、第1四半期の連結四半期純利益は上期業績予想に対して高い進捗率を達成

- 決算のポイントはご覧の3点となります。
- 1点目として、中核事業の営業指標は大きく改善しました。順風人生など主力商品の販売が好調だったことから、第一生命単体の新契約高は前年同期比で13.4%増加しました。また、解約失効高は前年同期比で35.0%減少しました。
- 2点目として、厳しい金融環境ではありましたが、金融派生商品によるヘッジを機動的に行ったことにより、第一生命単体の一般勘定資産運用収支は改善しました。
- 3点目として、連結四半期純利益は前年同期比では減益となったものの、上期業績予想に対しては高い進捗率を達成しました。
- 次に2ページをご覧下さい。

	(億円)				<参考>	
	10/3期1Q	11/3期1Q	前年同期比		11/3期2Q 累計(予想)	進捗率
経常収益	13,514	11,834	△1,679	△12%	21,030	56%
第一生命単体	11,230	10,798	△432	△4%	19,310	56%
経常利益	716	508	△208	△29%	740	69%
第一生命単体	716	655	△60	△8%	810	81%
四半期純利益 <sup>(1)(2)</sup>	296	103	△192	△65%	110	95%
第一生命単体	297	238	△58	△20%	170	140%

(1) 前年同期との比較を可能にするため、10/3期1Qについては、11/3期1Qと同様に契約者配当準備金繰入額を計上したと仮定し、10/3期に計上した契約者配当引当金繰入額925億円に1/4を乗じた金額を、四半期純剰余より控除しています。

(2) 第一生命は10/3期1Qにおいて相互会社でありましたが、四半期純剰余に代えて四半期純利益と記載しています。

- 連結主要業績はご覧のとおりです。
- 連結経常利益及び連結四半期純利益は、第一フロンティア生命において、前年同期に計上した変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金戻入益が、当期は繰入れに転じたこと等により、減少しました。
- 一方、当年度上期の業績予想及び第1四半期までの進捗率を右側に記載しております。連結経常収益は、第一生命、第一フロンティア生命いずれにおいても保険料収入が予想を上回っていること等により、順調な進捗率となっております。また、連結経常利益、連結四半期純利益についても、第一生命の営業業績が好調であったこと、事業費が想定より減少したこと等から高い進捗率となっております。
- 次に3ページをご覧ください。

## 第一生命

## 連結損益計算書・連結貸借対照表(要約)

連結損益計算書(要約)<sup>(1)</sup>

## 連結貸借対照表(要約)

	10/3期 1Q	11/3期 1Q	増減
経常収益	13,514	11,834	△1,679
保険料等収入	9,087	8,655	△431
資産運用収益	3,610	2,441	△1,168
うち利息・配当金等収入	1,703	1,640	△62
うち有価証券売却益	463	490	+26
うち金融派生商品収益	-	197	+197
うち特別勘定資産運用益	1,407	-	△1,407
その他経常収益	817	737	△79
経常費用	12,798	11,326	△1,471
うち保険金等支払金	6,564	6,271	△292
うち責任準備金等繰入額	3,424	878	△2,545
うち資産運用費用	543	2,070	+1,526
うち有価証券売却損	345	294	△50
うち特別勘定資産運用損	-	1,515	+1,515
うち事業費	1,120	1,075	△44
経常利益	716	508	△208
特別損益	△69	△91	△21
契約者配当準備金繰入額 <sup>(1)</sup>	231	178	△52
税金等調整前四半期純利益 <sup>(2)</sup>	415	238	△177
法人税等合計	119	148	+29
少数株主利益(△は損失)	0	△14	△14
四半期純利益 <sup>(2)</sup>	296	103	△192

	10/4始	10/6末	増減
資産の部合計	321,042	319,481	△1,561
うち現預金・コール	4,373	3,581	△791
うち買入金銭債権	2,898	3,109	+210
うち有価証券	251,473	250,230	△1,243
うち貸付金	38,349	37,666	△683
うち有形固定資産	12,440	12,495	+55
うち繰延税金資産	3,395	3,635	+239
負債の部合計	311,400	310,522	△878
うち保険契約準備金	292,047	292,634	+587
うち責任準備金	286,326	287,178	+851
うち退職給付引当金	4,114	4,167	+52
うち価格変動準備金	1,155	1,190	+35
純資産の部合計	9,641	8,958	△683
うち株主資本合計	5,587	5,598	+11
うち評価・換算差額等合計	3,936	3,256	△680
うちその他有価証券評価差額金	4,622	3,948	△674
うち土地再評価差額金	△635	△642	△7

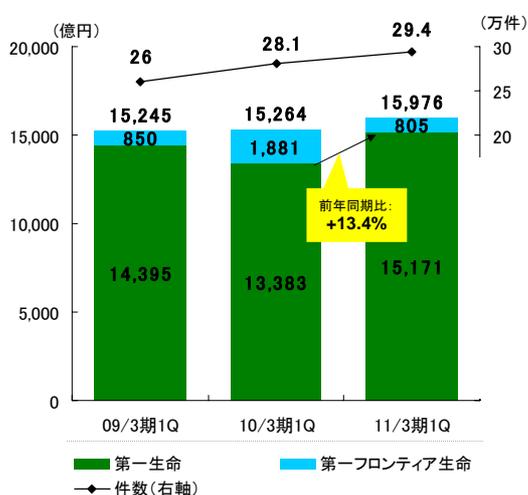
(1) 前年同期との比較を可能にするため、10/3期1Qについては、11/3期1Qと同様に契約者配当準備金繰入額を計上したと仮定しています。具体的には、10/3期に計上した契約者配当引当金繰入額925億円に1/4を乗じた金額を、契約者配当準備金繰入額として記載しています。

(2) 第一生命は10/3期1Qにおいて相互会社でありましたが、四半期純剰余に代えて四半期純利益と記載しています。

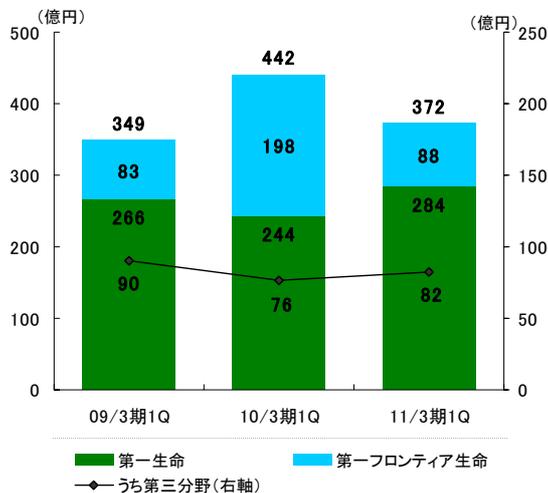
3

- 主要収支の詳細をご説明します。
- 連結経常収益は、前年同期と比べ1,679億円減少し、1兆1,834億円となりました。これは主に、金融環境が回復した前年同期に計上した特別勘定資産運用益が、当期は特別勘定資産運用損となったためであり、責任準備金の戻入れと相殺されるため、利益に影響するものではありません。
- 連結経常収益のうち、保険料等収入は、第一生命の保険料等収入は増加したものの、第一フロンティア生命の変額年金の販売が減少したことから、前期と比べ431億円減少し、8,655億円となりました。
- 連結経常利益は、前年同期と比べ208億円減少し、508億円となりましたが、これは主として、第一フロンティア生命において、金融環境が回復した前年同期に計上した変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金戻入益が、金融環境が悪化した当期は繰入れに転じたことによります。
- 連結経常利益に、特別利益、特別損失、契約者配当準備金繰入額、法人税等合計、少数株主損失を加減した連結四半期純利益は、前年同期と比べ192億円減少し、103億円となりました。
- 次に4ページをご覧ください。

新契約高<sup>(1)</sup>



新契約年換算保険料<sup>(1)</sup>

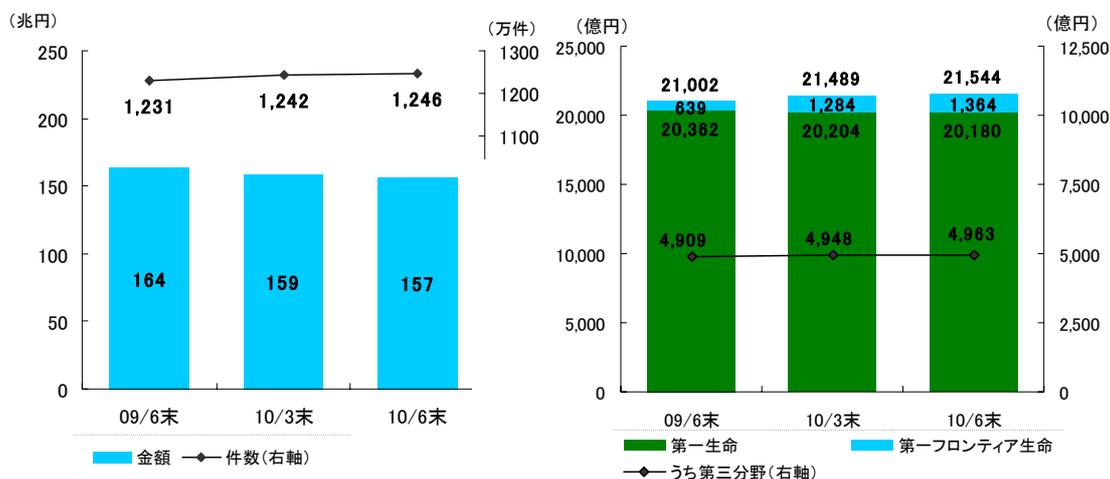


(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

- 契約業績の状況についてご説明します。こちらは、第一生命と第一フロンティア生命を合算した数値となります。
- 左のグラフは、個人保険・個人年金保険合計の新契約高の状況です。新契約高は、第一フロンティア生命が減少したものの、第一生命は、株式会社化に伴うお知らせ訪問活動や営業職員の育成強化の効果等により、前年同期と比べ13.4%増加しました。この結果、両社合算では4.7%増加の1兆5,976億円となりました。第一フロンティア生命の減少要因については後ほどご説明します。
- 次に、右のグラフですが、新契約年換算保険料は、第一生命が増加したものの、第一フロンティア生命が減少した結果、両社合算では前年同期と比べ15.8%減少し、372億円となりました。このうち、折れ線で示しております第三分野は前年同期と比べ8.7%増加しました。
- 次に5ページをご覧ください。

保有契約高<sup>(1)</sup>

保有契約年換算保険料<sup>(1)</sup>



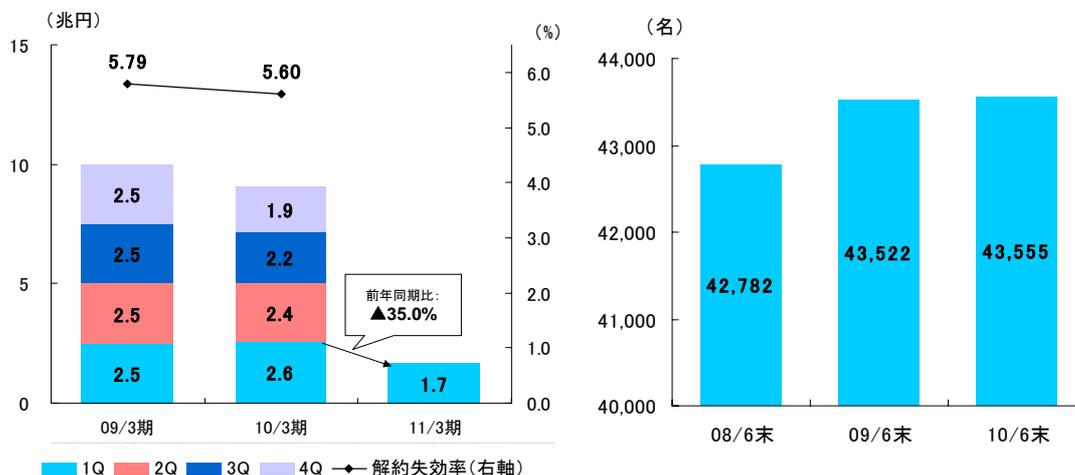
(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

- 保有契約の動向についてご説明します。
- 左のグラフの保有契約高は、前年度末と比べ0.9%減少し、157兆円となりました。折れ線で示しております保有契約件数は前年度末と比べ増加しました。
- 次に、右のグラフですが、保有契約年換算保険料は、前年度末と比べ0.3%増加し、2兆1,544億円となりました。このうち、折れ線で示しております第三分野は4,963億円となり、堅調に推移しております。
- 次に6ページをご覧ください。

解約失効高、営業職員数

解約失効高(個人保険・個人年金保険)<sup>(1)</sup>

営業職員数<sup>(1)(2)</sup>



(1) 第一生命単体ベース

(2) 営業職員については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。

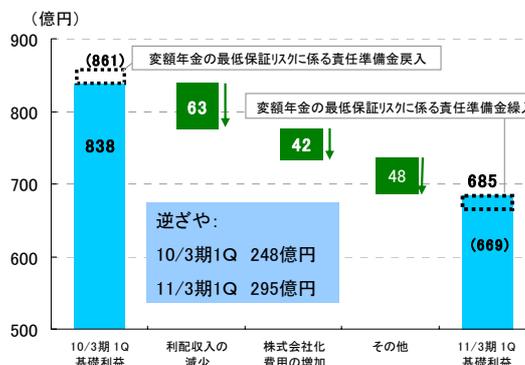
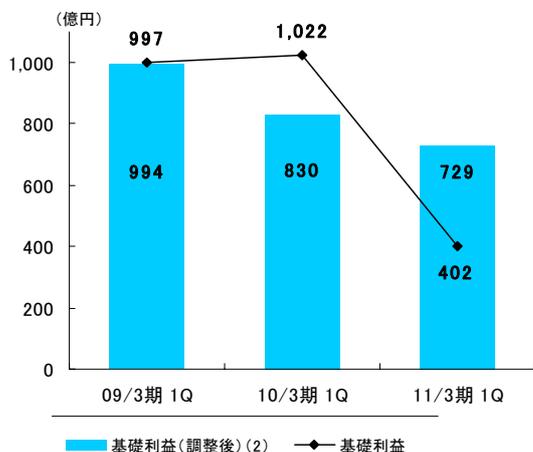
- 左のグラフは第一生命単体の解約失効高並びに解約失効率の状況を示しております。解約失効高については、株式会社化に伴うお知らせ訪問活動の効果等により、前年同期より大幅に改善し、約1.7兆円となりました。
- 右のグラフは、営業職員数です。前年同期末と比べ若干増加しております。
- 次に7ページをご覧ください。

第一生命

基礎利益

基礎利益<sup>(1)</sup>

基礎利益(調整後)の減少要因【第一生命単体】<sup>(3)</sup>

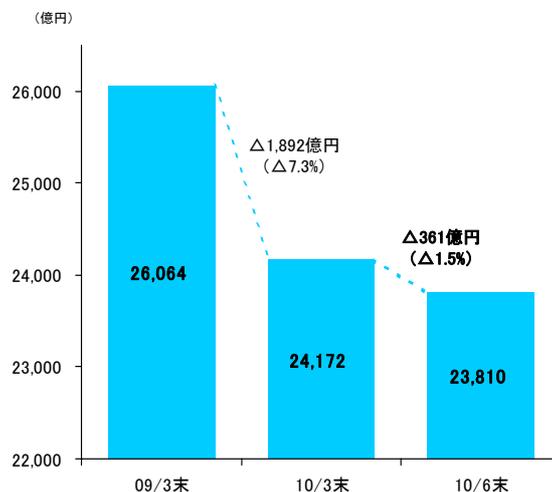
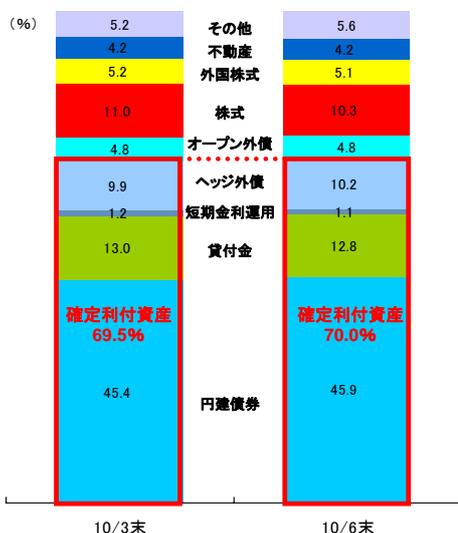


(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース  
 (2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 - 変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入・戻入額  
 (3) 括弧内数値は、調整前の基礎利益

- 基礎利益についてご説明します。
- 左のグラフの折れ線で示しております第一生命と第一フロンティア生命合算の基礎利益は大きく減少しておりますが、これには変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金がノイズとして影響しています。この影響を除いた基礎利益を棒グラフで示しておりますが、ノイズ修正後の基礎利益は、前期と比べ約100億円減少し、729億円となっております。
- 右のグラフは、第一生命単体について、変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入れの影響を除いた基礎利益の減少要因を示しております。円高進行による利息配当金収入の減少が63億円、株式売出しに伴う契約者への送金事務等株式会社化コストの増加が42億円となっております。
- 次に8ページをご覧ください。

資産の構成(一般勘定)<sup>(1)</sup>

国内株式の簿価<sup>(1)(2)</sup>



(1) 第一生命単体ベース

(2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

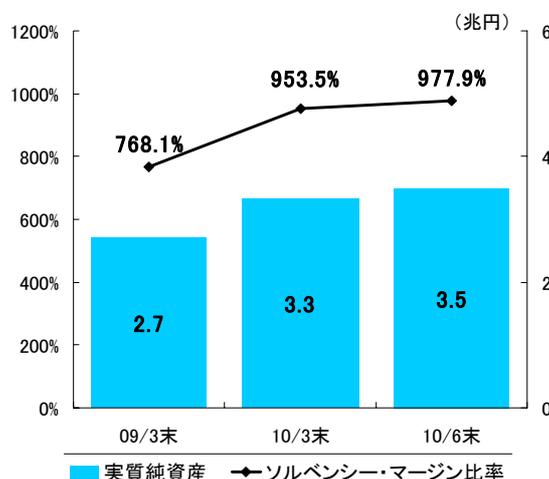
- 資産運用の状況についてご説明します。
- 左のグラフをご覧ください。第一生命の一般勘定資産の構成比を示しております。
- 引き続き、ALMと厳格なリスク管理の考え方に基づいて、円建公社債や貸付金などの確定利付資産中心の運用を継続しています。
- また、一般勘定資産における国内上場株式のエクスポージャーですが、右のグラフの通り前年度末と比べてさらに減少しました。
- 今後も、リスク性資産のコントロールを継続していく方針です。
- 次に9ページをご覧ください。

含み損益(一般勘定)<sup>(1)</sup>

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額<sup>(1)</sup>

(億円)

	10/3末	10/6末	増減
有価証券	8,514	10,670	+2,156
国内債券	2,657	7,668	+5,010
国内株式	5,225	3,351	△1,874
外国証券	598	△348	△947
不動産	908	908	△0
一般勘定計	9,420	11,568	+2,148

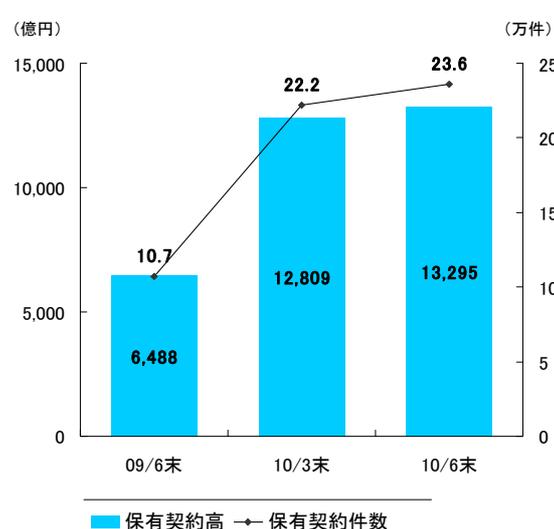
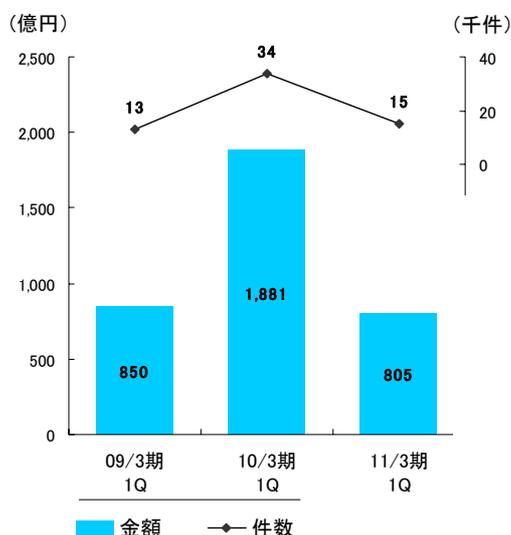


(1) 第一生命単体ベース

- 第一生命の健全性指標についてご説明します。
- 左の表の含み損益は、金利の低下による国内債券の含み益の増加等により、前年度末と比べ2,148億円増加しました。
- また、右の折れ線グラフのソルベンシーマージン比率は、株式残高の減少に加え、金融環境悪化に備えた金融派生商品のヘッジポジション積み増しにより、資産運用リスクが減少した結果、前年度末と比べ24.4ポイント上昇し、977.9%となりました。
- 次に10ページをご覧ください。

**新契約高**

**保有契約高**



10

- 第一フロンティア生命の状況についてご説明します。
- 左のグラフをご覧ください。新契約高は、前年同期と比べ減少し、805億円となりました。これは、当期の販売実績は好調であるものの、前年同期の販売実績が特殊要因、—即ち、競合他社の変額年金事業からの撤退等により、第一フロンティア生命を含む特定の保険会社に販売が集中したことですが、—こうした特殊要因で前年同期が大幅に増加していたことの反動によるものです。
- 右のグラフの保有契約高は順調に増加し、1兆3,295億円となりました。
- 今後も、個人年金市場の長期的な成長性を見据えながら、安定的に残高を積み上げてまいります。
- 次に11ページをご覧ください。

## 第一生命

## 第一フロンティア生命②

収支の状況

(億円)

	09/3期1Q	10/3期1Q	11/3期1Q
経常収益	855	2,307	1,052
うち保険料等収入	853	1,974	920
うち変額年金	847	1,726	708
うち定額年金	-	147	95
うち資産運用収益	0	331	131
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益	-	-	127
経常費用	914	2,306	1,195
うち責任準備金等繰入額	839	2,106	438
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(△は戻入額)	4	△ 170	310
うち危険準備金繰入額	8	126	4
うち資産運用費用	10	33	527
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失	-	33	-
経常利益(△は損失)	△ 59	1	△ 143
当期純利益(△は損失)	△ 59	1	△ 140

当期純利益(△は損失)	△ 59	1	△ 140
(A)危険準備金繰入額	8	126	4
(B)最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(△は戻入額)	4	△ 170	310
(C)最低保証リスクに対するヘッジ損失(△は利益)	-	33	△ 127
当期純利益+(A)+(B)+(C)	△ 46	△ 8	47

11/3期 通期予想
△ 160
200
160
△ 40
160

11

- 第一フロンティア生命の収支の状況についてご説明します。
- 四半期純利益は前年同期の1億円の黒字から140億円の赤字になりました。これは、金融環境が回復した前年同期においては変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金の戻入益を計上した一方で、金融環境が悪化した当期は繰入れに転じたこと等によるものです。
- なお、当期純損失の金額が5月14日に発表しました2011年3月期の通期予想(当期純損失160億円)に近い損失額となっておりますが、今後の金融環境によっては前年同期のように戻入れとなることもあり、最終的な損益は最低保証のある変額年金が満期になるまで確定するものではありません。
- また、表の下段に、市場変動要因を除いた、負債性の資本である危険準備金への繰入れや変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入れ及びヘッジ損失を調整した、第一フロンティア生命の基礎的収益力とも言える数値の推移を記載しております。基礎的収益力は、着実に改善しており、11/3期の通期予想に対して順調な進捗率となっております。
- 次に12ページをご覧ください。

2011年3月期業績予想(5/14当初予想から変更なし)

(億円)

	10/3期	11/3期(予)	増減
経常収益	52,940	43,260	△9,680
第一生命単体	43,315	39,720	△3,595
第一フロンティア	9,613	3,500	△6,113
経常利益	1,882	1,950	+67
第一生命単体	1,936	2,090	+153
第一フロンティア	△83	△160	△76
当期純利益	556	500	△56
第一生命単体	608	620	+11
第一フロンティア <sup>(1)</sup>	△76	△144	△67
1株当たり配当金	—	1,600円	—

(※)上記とは別に、組織変更時の定款附則第2条の規定に基づき2010年4月16日を基準日として、第1回株主配当(1株当たり1,000円)を実施しました。

(参考)

基礎利益 (第一生命単体)	3,301	3,000弱	—

(1) 持分考慮後

■2011年3月期の業績予想についてです。

■第1四半期決算は上期業績予想に対して高い進捗率となっておりますが、引き続き第2四半期以降の金融環境が不透明なため、従来の業績予想を据え置くこととしております。

■以上で、説明を終了させていただきます。

いちばん、人を考える会社になる。

**第一生命**

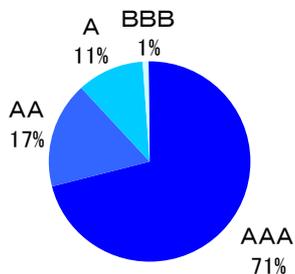
参考データ

**第一生命**

**健全な外債ポートフォリオ(一般勘定、2010年6月末)**

- 格付別内訳では、AAA格が71%、A格以上が99%を占める
- ユーロ圏一部諸国への投資も限定的

格付別内訳<sup>(1)</sup>



ユーロ圏一部諸国への投資<sup>(1)</sup>

	金額 (億円)		対一般勘定 比率	対外債 比率	外債 インデックス 比率 <sup>(2)</sup>
		うち国債			
イタリア	2,424	2,253	0.8%	5.7%	5.1%
スペイン	1,233	1,113	0.4%	2.9%	3.4%
ポルトガル	106	88	0.0%	0.2%	0.6%
アイルランド	-	-	-	-	0.5%
ギリシャ	-	-	-	-	0.0%
合計	3,764	3,456	1.3%	8.8%	9.7%

<参考>

(1) 外部委託運用を除く  
 (2) パークレイズ・キャピタル・グローバル総合(日本円除く)インデックス、出所: パークレイズ・キャピタル

金融市場への感応度(2010年6月末)

	感応度 <sup>(1)(2)</sup>	含み損益ゼロ水準 <sup>(2)(3)</sup>
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 2,700億円(2,700億円)の増減	日経平均株価 ¥8,500 (¥8,700)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 1,600億円(1,500億円)の増減	10年国債利回り 1.6% (1.6%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 180億円(180億円)の増減	ドル/円 \$1 = ¥96 (¥95)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度。

(2) ()の数値は2010年3月末の水準

(3) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロとなる水準。

いちばん、人を考える会社になる。

参考データ

**第一生命**

**第一生命(単体)財務諸表**

**損益計算書(要約)<sup>(1)</sup>**

(億円)			
	10/3期 1Q	11/3期 1Q	増減
経常収益	11,230	10,798	△432
保険料等収入	7,105	7,727	+621
資産運用収益	3,309	2,342	△966
うち利息・配当金等収入	1,711	1,648	△63
うち有価証券売却益	463	490	+26
うち金融派生商品収益	-	197	+197
うち特別勘定資産運用益	1,078	-	△1,078
その他経常収益	815	728	△87
経常費用	10,513	10,142	△371
うち保険金等支払金	6,507	6,078	△429
うち責任準備金等繰入額	1,313	439	△873
うち資産運用費用	557	1,563	+1,005
うち有価証券売却損	345	294	△50
うち特別勘定資産運用損	-	989	+989
うち事業費	1,027	1,043	+15
経常利益	716	655	△60
特別損益	△69	△91	△21
契約者配当準備金繰入額 <sup>(1)</sup>	231	178	△52
税引前四半期純利益 <sup>(2)</sup>	415	385	△29
法人税等合計	118	147	+29
四半期純利益 <sup>(2)</sup>	297	238	△58

**貸借対照表(要約)**

(億円)			
	10/4始	10/6末	増減
資産の部合計	308,224	306,353	△1,871
うち現預金・コール	3,976	3,278	△697
うち買入金銭債権	2,898	3,109	+210
うち有価証券	239,879	238,459	△1,419
うち貸付金	38,343	37,659	△683
うち有形固定資産	12,436	12,491	+55
うち繰延税金資産	3,376	3,614	+237
負債の部合計	298,221	296,901	△1,320
うち保険契約準備金	278,962	279,110	+147
うち責任準備金	273,248	273,662	+414
うち危険準備金	5,270	5,315	+45
うち退職給付引当金	4,096	4,148	+52
うち価格変動準備金	1,154	1,189	+35
純資産の部合計	10,003	9,452	△550
うち株主資本合計	6,046	6,192	+145
うち評価・換算差額等合計	3,956	3,259	△696
うちその他有価証券評価差額金	4,611	3,928	△682
うち土地再評価差額金	△635	△642	△7

(1) 前年同期との比較を可能にするため、10/3期1Qについては、11/3期1Qと同様に契約者配当準備金繰入額を計上したと仮定しています。具体的には、10/3期に計上した契約者配当引当金繰入額925億円に1/4を乗じた金額を、契約者配当準備金繰入額として記載しています。

(2) 第一生命は10/3期1Qにおいて相互会社でありましたが、四半期純剰余に代えて四半期純利益と記載しています。

## 第一フロンティア生命(単体)財務諸表

## 損益計算書(要約)

(億円)

	10/3期 1Q	11/3期 1Q	増減
経常収益	2,307	1,052	△1,255
うち保険料等収入	1,974	920	△1,053
うち資産運用収益	331	131	△200
経常費用	2,306	1,195	△1,111
うち保険金等支払金	55	191	+136
うち責任準備金等繰入額	2,106	438	△1,668
うち資産運用費用	33	527	+494
うち事業費	98	35	△63
経常損益	1	△143	△144
特別損益	△0	3	+3
税引前四半期純損益	1	△140	△141
法人税等合計	0	0	+0
四半期純損益	1	△140	△141

## 貸借対照表(要約)

(億円)

	10/3末	10/6末	増減
資産の部合計	14,231	14,536	+305
うち現預金・コール	300	202	△97
うち有価証券	13,135	13,309	+174
負債の部合計	13,057	13,493	+435
うち保険契約準備金	13,002	13,440	+438
うち責任準備金	12,996	13,432	+435
うち危険準備金	447	452	+4
純資産の部合計	1,174	1,043	△130
うち株主資本合計	1,162	1,021	△140
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△687	△828	△140

いちばん、人を考える会社になる。

**第一生命**

### 本資料の問い合わせ先

第一生命保険株式会社  
経営企画部 IR室  
電話:050-3780-6930

### 免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「第一生命」または「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。